

外国語教育におけるICTの活用について(たつき台)

(現状と今後の方向性)

各教科等における情報に関わる資質・能力の育成 改善・充実のポイントのイメージ(案)

平成28年3月22日
教育課程部会
外国語ワーキンググループ
資料 8

外国語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国語によるコミュニケーションに必要な情報を抽出し、得られた情報を基に自分の考えを構築し、効果的に伝えるために必要な力を育成すること。 ○ アクティブ・ラーニングの視点に立ったペア・ワークやグループ・ワークなどの学習活動において、ICTを効果的に活用した学習が行われるようにすること。 ○ 外国語に触れるとともに実際に外国語を使う機会を増やすためにも、ICTを積極的に活用すること。
-----	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

平成28年1月18日 総則・評価部会(第4回)資料より

	○現行の学習指導要領 (◇解説)	参考 (26年度)	方向性	活用例
小学校	<p>○音声を取り扱う場合には、CD、DVDなどの視聴覚教材を積極的に活用すること。 その際、使用する視聴覚教材は、児童、学校及び地域の実態を考慮して適切なものとする。 ◇さまざまな視聴覚教材が手に入ることを考えると、それらを使う目的を明確にし、児童や学校及び地域の実態に応じたものを選択することが大切である。</p> <p>[課題] ・教室の環境整備 (校内LANの整備や必要機器の設置等) ・教員によるICTリテラシーの差 (効果的な指導法の共有不足)</p>	<p>87.3%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン 88.7% ・デジタルカメラ37.1% ・電子黒板 31.8% 		<p>【対話的な学び】 ・ペア等で会話などのシミュレーションの交流や、会話などの言語活動を効果的に行うためのICTの活用 等</p> <p>【深い学び】 ・音声中心にデジタル教材や電子黒板等を活用して、児童にネイティブの発音に触れ、日本語と英語の音声の違いに気付かせる ・情報通信ネットワーク等を通して、中学校区内小学校や、校種の違う学校及び、海外の学校との交流により、外国語を使ったコミュニケーションを体験することがさらにコミュニケーションへの意欲を喚起 等</p> <p>【主体的な学び】 ・習熟度に応じた発音等の練習 ・活動の振り返り 等</p>
中学校	<p>○生徒の実態や教材の内容などに応じて、コンピュータや情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用すること。 ◇視聴覚機器を効果的に使うことで教材が具体化され、生徒にとって身近なものとしてとらえられるようになるとともに、生徒の興味・関心を高め、自ら学習しようとする態度を育成できる。 ・情報通信ネットワーク等を使い、教材に関する資料や情報を入手することや、情報を英語で発信したりすることで、主体的に世界と関わっていくという態度を育成できる。</p> <p>[課題] ・教室の環境整備 (校内LANの整備や必要機器の設置等) ・教員によるICTリテラシーの差 (効果的な指導法の共有不足) ・ICT活用に適した教材の不足</p>	<p>89.9%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン 87.0% ・電子黒板 51.7% ・書画カメラ 23.6% 	<p>・視聴覚教材、パソコン、情報通信ネットワークなどを、身に付けるべき能力や児童生徒の現状(能力・適性や興味・関心など)に応じて活用する。これらを通じ、児童生徒の興味・関心をより高め、指導の効率化及び言語活動の更なる充実を図り、児童生徒の4技能にわたる総合的なコミュニケーション能力向上に資する。</p>	<p>【対話的な学び】 ・複数の意見や考えを議論し、互いの意見を伝え合う ・グループでの情報の収集・整理(リサーチ活動) ・プレゼンソフトを活用し、与えられたテーマ等について口頭で発表 等</p> <p>【深い学び】 ・インターネット等による調査 ・テレビ会議システムを活用し、外国の生徒と交流(相互の学校紹介等) ・電子黒板等を用いた分かりやすい課題の提示 ・遠隔地の学校との交流 ・情報通信ネットワーク等を用い、教材に関する資料や情報を入手 等</p> <p>【主体的な学び】 ・学習の振り返りや自己評価 ・話すことのパフォーマンスをタブレットで録画し、自分や他の生徒の様子の振り返り ・自分が書いた文章を実際にメールで送信 等</p>
高等学校	<p>○各科目の指導に当たっては、指導方法や指導体制を工夫し、ペア・ワーク、グループ・ワークなどを適宜取り入れたり、情報通信ネットワーク等を適宜指導に生かしたりする。 ◇視聴覚教材などを活用して現実感や臨場感を与えたり、パソコンなどを利用して生徒の能力・適性や興味・関心に応じた個別学習の機会を拡大したり、情報通信ネットワークを有効に活用して発展的な言語活動を実際に体験させたりするなど、様々な指導方法や指導体制の工夫をすることが大切である。</p> <p>[課題] ・教室の環境整備 (校内LANの整備や必要機器の設置等) ・教員によるICTリテラシーの差 (効果的な指導法の共有不足) ・ICT活用に適した教材の不足</p>	<p>74.6%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パソコン 86.3% ・指導者用タブレット 28.6% ・デジタルビデオカメラ 20.5% 		<p>【対話的な学び】 ・得られた情報を活用した意見等の構築 ・発表、討論・議論、交渉などの言語活動を効果的に行うためのICT機器の活用 等</p> <p>【深い学び】 ・グループでの情報の収集・整理(リサーチ活動) ・扱う話題に関連した教材(英文、音声、動画等)の提示による発展的な言語活動 ・言語活動の展開方法等のビジュアル化 ・国内外の遠隔地の学校(海外の姉妹校を含む)等とのEメールやテレビ会議による交流 等</p> <p>【主体的な学び】 ・学習の振り返りや自己評価 等</p>